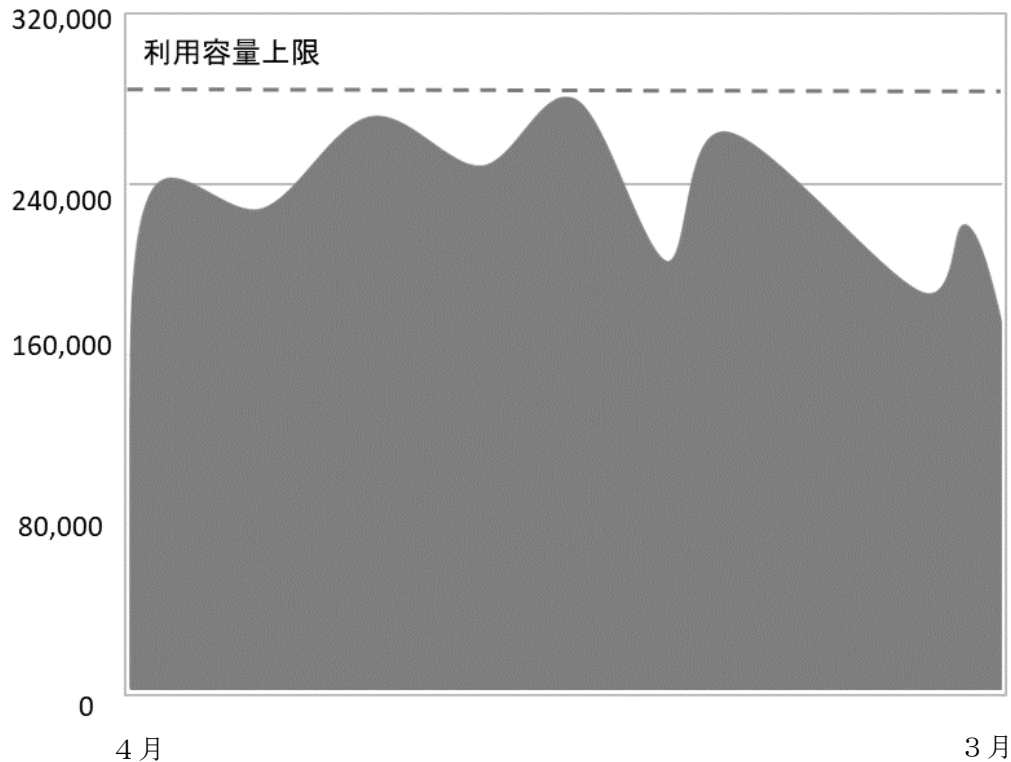


LNG 貯蔵余力の見通し

LNG 貯蔵容量 (KL)



受入余力・受入量の算定条件

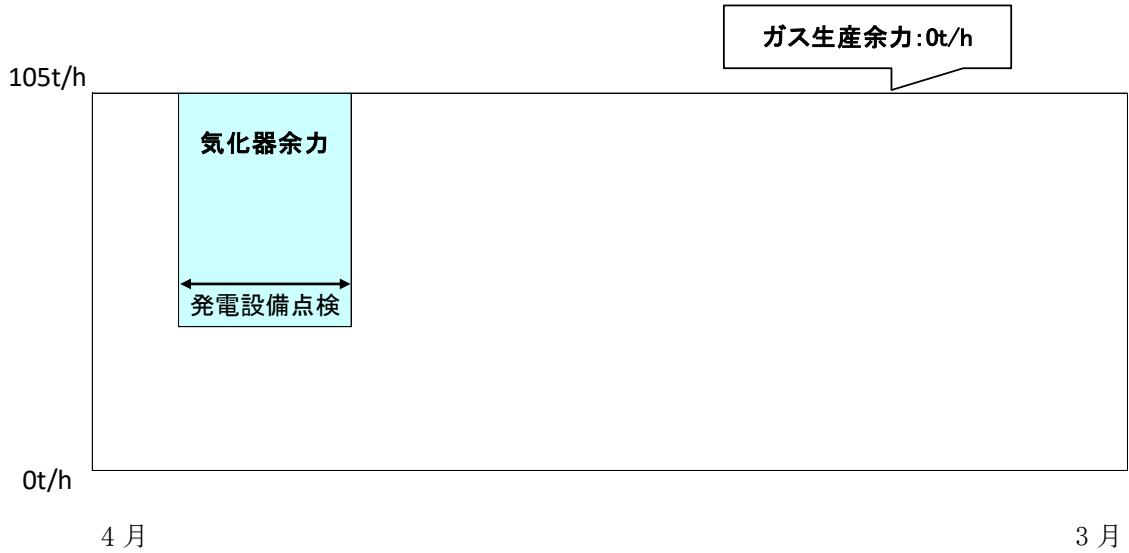
水島基地では、ルームシェア方式で、年間 124 千 k1 受入可能となる見込みです。

なお、本数値は 2022 年 7 月末時点で以下条件での受入余力であり、LNG 船の受入状況、ガス・電力需要動向、予定外設備工事等により大きく変動いたします。詳細に関しましては、別途お問い合わせください。

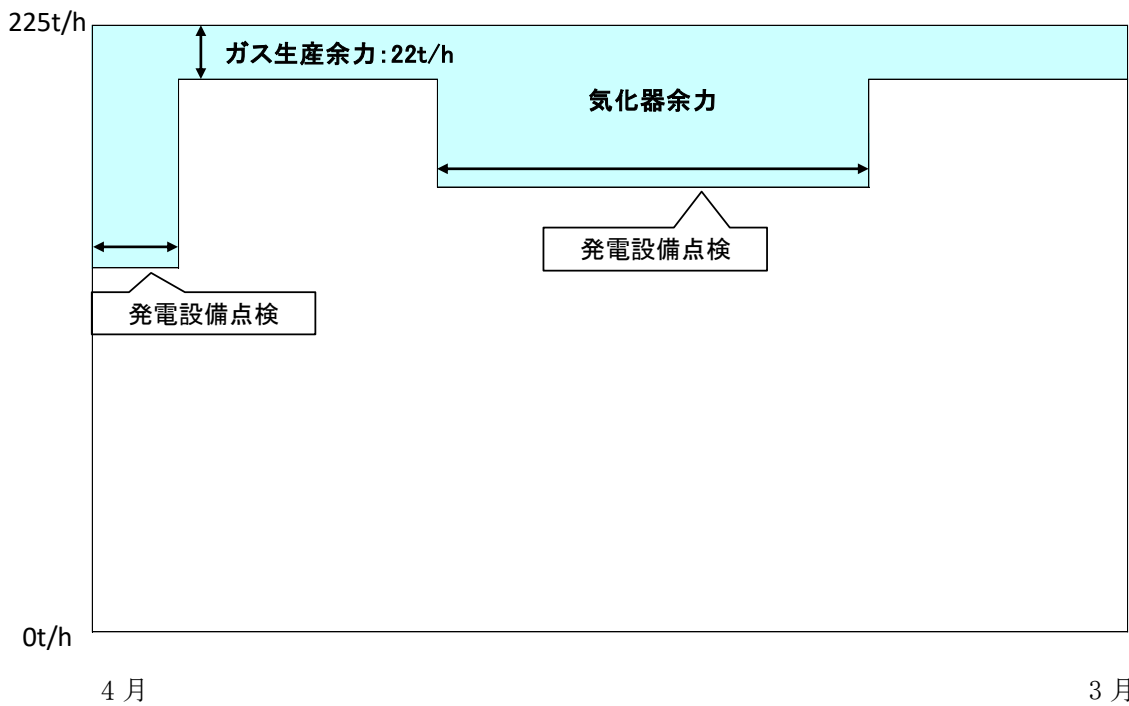
ルームシェア方式における受入余力は、入船 1 回あたり 124 千 KL を、年度終了時に LNG 在庫が零となるように、6 カ月以内で払い出した場合の結果となります。また、高在庫が見込まれる期間は、当社から LNG 貸出を行い、高在庫期間後に LNG を受入返却した場合の結果となります。

ガスの製造余力の見通し

【低圧気化器】



【高圧気化器】



(注) 上図は当基地のLNG気化余力の見通しを示すものです。実際の気化余力は、ガス・電力の需要動向、発電所や気化設備等の定期点検工事・設備工事等によって大きく変動いたします。

利用可能な船舶の種類・船型，液化ガスの種類・品質

(1) 利用可能なLNG船の船型

船 型	総トン数	載貨重量トン	全 長 (m)	幅 (m)	最大喫水	最大積載 貨物数量
#モス型 155,999m ³	121,675	76,355	289.50	49.00	11.925	97,000
モス型 177,441m ³	*141,671	*87,257	*300.03	*52.00		
☆モス型 155,696m ³	136,740	75,837	288.00	48.94		
膜ブレン型 210,197m ³	*137,535	*122,052	315.00	50.00	13.621	
膜ブレン型 216,293m ³	136,410	107,169	*315.16	50.00		
#膜ブレン型 217,591m ³	135,848	107,169	315.06	50.00		

※総トン数は参考値。ただし，上記総トン数以下を配船する。

【凡例】

*：棧橋の最大値として採用する要目。型式ごとに最大値を定める。

☆：連続タンクカバー式。

#：LNG型式ごとの最大喫水を採用するもの。

(2) 利用可能と見込まれる液化ガスの種類・品質（性状）

組成	メタン	86.00 モル%以上
	ブタン以上	2.50 モル%以下
	ペンタン以上	0.25 "
	N ₂	1.50 "
発熱量	42.5～45.0 MJ/m ³ N	
その他	固形またはその他の不純物（H ₂ S、T-S等）及び異物を含まないこと。	

(注) 受け入れることができる LNG の性状は、個別の利用条件やタンク運用実態によって異なるため、上記の数値は目安とします。

配船計画の策定期期の見通し

当年度分の配船計画の策定期期は概ね以下の通りです。

- ・前年度 7 月頃 ・ ・ ・ LNG 売主との間で配船協議を開始
- ・前年度 10 月～3 月頃 ・ ・ ・ LNG 売主との間で年間配船計画を策定

(注) 上記はおおよその策定期期であり、具体的な配船計画策定期期は様々な LNG プロジェクトによって異なります。

参考：現行設備

LNG 船バース	貯蔵設備	気化設備
LNG 船バース 最大船型： 6号バース 122,052DWT 水深： 6号バース -16.00m	貯蔵設備 160千kl×2基 合計320千kl(147千t)	気化設備 105t/h×1.4MPa IFV 1基 75t/h×5.6MPa IFV 3基 75(105)t/h×5.6(1.4)MPa IFV 1基※ 75(105)t/h×5.6(1.4)MPa SEV 1基※ ※高低圧兼用